日本の城

3年2組 小谷陸

1. はじめに

筆者は、東大寺や法隆寺、大仏などに文化財の多い奈良県に住む者として、日本が古くから築いてきた文化について調べていきたいと思いがあった。そしてどうせ研究するなら少し興味があった日本の城についてが良いと思い城について調べていくことにした。今回の最終目標は、日本の、海外にも誇れる伝統文化財の城を後世にも残し繋いでいくにはどのようなことが必要になるのかを知り、自分のできることに着手していくことである。まず、なぜ城の保存にこだわるのかだが、昔から、大阪城が近くにあるということで、よく付近を訪れていた。その際、大阪城を見る度に何度も憧憬のような感情を抱いていた事を覚えている。そして、小中と歴史を学ぶ時にその時の感情で興味が湧いて、意欲的に学習に務められたと思う。そういったような経験を、自分より幼い子供にも同じように体験して欲しいと思い、今回の研究に取り組むに至った。

2. 序論

国土交通省観光庁の公式HPによると、2011年から2019年は日本への海外からの観光者は右肩上がりに増えている。コロナ渦の関係で2020年21年では減少してこそいるが、そのなかアニメや漫画の影響で武士や忍者への興味を持つ外国人も増えており、日本のお城への観光者が年々増えている。そうしたなか、全国各地の城跡や城に関する保存管理計画が立案されるなど、観光客数の増加と共に様々な課題点も出てきている。そうした計画の中で問題視されているのは、現存している遺構の保存や周辺環境、景観形成といった一朝一夕では解決できないものも多い。

そうした日本の城が抱える問題、課題点をどのように解決していくのか、そして日本が誇る城という文化、伝統のものをどのようにして後世へ残し伝えていくのか、ということについて研究していく。

最終目標を達成するために解決していかなければいけない問題が2つある。1つ目は、城自体の保存・管理に関する課題。そして2つ目は、城自体の活用に関する問題である。この2つの問題を、我々の身近にある大阪城と大阪城に次ぐ観光客数を誇った年のある名古屋城の2つをそれぞれ比較し、解決に繋げていきたいとおもう。

3. 本論

名古屋城には、今後のよりよい管理に向け、まだまだ解決されていない課題点が多々ある。一番の課題点は現存遺構の保存についてである。名古屋市の公式ホームページ中にある「特別史跡名古屋城保存活用計画の4章・現状と課題の整理」では、「なにか災害などにより修復が必要になった場合は、順次修復整備等を行ってきてはいたが、具体的な保存管理方法は定まっていない状況が続いている」、と記されている。名古屋城を後世へ確実に継承するとともにより一層の魅力の向上を図るために立てられた計画であるが、大きな効果を発揮できてはいない。何かあれば都度対策を取るという後手に回ってしまっており、具体的には定まっていないため、なにか大きな災害などによる破損が見られた場合は、対応が遅れてしまう可能性がある。また、観光者数は年々増加傾向にあるが、潅木や草本類の被覆・繁茂により遺構の全容が見られない箇所

や眺望が遮られている箇所が多数ある。そういったことに対する適切な維持管理もできていない状況である。また、名古屋城周辺にある二之丸庭園については、取扱方針が定められているが、特別史跡全体を対象とした取扱方針は定められていないため、保存・活用事業の推進が難しくなっているのが現状である。さらに、名古屋城の遺構が存在するにもかかわらず、特別史跡未告示地域、または未指定地域となっている箇所がある。

一方大阪城では、特別史跡大坂城跡に関する調査・ 研究の成果を反映させ、文化財としての本質的価値 や大坂城跡を構成する要素等を明確にすることによって、特別史跡としての適切な保存・整備の在り方・方針および現状変更等の取扱基準等を定めている。また、今後の整備・活用の方向性を示す必要が生じていたことから名古屋城同様に「特別史跡大阪城跡保存管理計画」が策定されている。これにより、大阪城地ではその計画を元に都市公園としての整備が進められ、水と緑豊かな市民の憩いの場として利用されている。また、大阪を代表する観光地としても広く認知され、コロナ禍以前では平成25年から平成29年にかけて天守閣の入場者数が最多記録を更新し続けており、1.7倍ほどになっていた。

2つ目の問題は、城自体の活用に関する問題だ。

名古屋城では、観光客の観覧が有料区域のみにとどまっていることや、無料区域に位置する遺構の存在が認識されづらく、かつての名古屋城の広大な全体像が伝えにくくなっている。また、歴史や価値等を伝えるために設置された施設はいいものの、認知度が低く利用されていない施設が存在している。また、名古屋城の本質的価値や特徴などの情報がまだまだ普及されておらず、観覧時の見どころ等の情報発信も十分とは言えない状況だ。さらに、来場者が快適に観覧するために必要な休憩施設も、城の保存、活用の観点から必要性や今後のあり方等も検討していく必要がある。また、多様性を求められる社会において、高齢者や障害者にも利用しやすいバリアフリー施設等の設置にも対応していく必要がある。また、城自体の内装や外観を見学者向けにしすぎているのではないかという問題もあると思う。もちろん、観光客が興味を引き訪れてみたいと思わせるのも重要だ。だが、動機がそれだけになってしまい、城という日本の遺産ではなく、一種の観光地として利用されすぎてしまっているのではないかと思う。その城が持つ歴史や文化、当時の人の思いなど城自体に関する情報が少なく観光するだけのものになってしまっていると感じた。また、そうなってしまうと他に観光スポットはいっぱいある中で、もう一度城を訪れて見たいという人は少ないのではないかと思う。

大阪城では、先程の計画をもとに、「特別史跡大坂城跡の本質的価値を構成する諸要素」・「近代以降の大阪城特有の歴史的価値を構成する諸要素」および「その他の諸要素」の現状と課題が整理され、それぞれ要素ごとの検討を行われている。また、特別史跡の範囲を10地区に区分し、地区ごとに保存・管理・活用の方針を定め整理を行っている。そうすることにより、地区ごとにその特性をふまえた整備・活用の方針をかなり踏み込んで計画することが出来ている。

以上の2つを比較した結果、名古屋城では計画さえ立案されているもののそれに沿った具体的な行動には移せていないと感じた。反対に、大阪城では計画を元に、沿うだけでなく臨機応変な行動ができていると感じた。

4. 結論

以上のことにより具体的かつ現実的な方法で保存・管理や整備・活用の方針を定め適切な取り扱いを行い、城を後世にも残し繋いでいくためには、各城の持つ本質的価値さらに近代以降の歴史的価値を再確認し、そのうえで城の持つ新たな価値を創出しやすい状態にする必要がある。そして、各城の所在がある市や町ごとに計画を定め、それに沿って保存・管理・活用をしていく必要があると思われる。名古屋城の場合は、計画が立案されているのにも関わらずその計画を効果的に利用・活用できていない現状である。まずは、既にあるものをどのように利用していくかを考えるべきだと思う。

以上の事柄は、以前から検討、考察されていたと思う。だが具体的な解決に至っていないのは、やはり城という日本の伝統的文化財の重要性にあると思う。重要だからこそ軽はずみな計画・方

針の策定が出来ないのだと思うが、しかし、いつまでも放置していていい問題ではなく、そしてそれを市民や町民にも理解してもらい、町や市、県全体で解決に近づいていかなければならない。

5. おわりに

今までただ観光地として整備され発展するのを何も考えることなく認識していただけだったが、その裏で様々な葛藤、課題解決に向けた人々の行動があったのだと知った。そうすることで、他に世の中にあるそうした問題、人々の行動を知りたいと思う心が芽生えた。

自分自身今まで知ろうとしたことの無いことを知り、自分自身も社会にどのように貢献していくかを考えるきっかけにしたい。

6. 参考文献・出典

佐藤隆（大阪市教育委員会事務局文化財保護課）『特別史跡大坂城跡保存管理計画』
https://repository.nabunken.go.jp/dspace/bitstream/11177/7763/1/BB3070547X_015_022.pdf
2018年 6月 閲覧2022年10月21日

名古屋市
https://www.city.nagoya.jp/kankobunkakoryu/cmsfiles/contents/0000105/105368/4shou.pdf
2018年5月　閲覧2022年 10月21日

観光庁　国土交通省観光庁HP
https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in_out.html
2022年1月31日 閲覧2022年 10月21日